… For the advancement of higher education

大学教務実践研究会　教務課題検討フォーラム

主催：大学教務実践研究会、東海国立大学機構名古屋大学高等教育研究センター[質保証を担う中核教職員能力開発拠点]

2026年12月12日（土）10:30–16:45

現地参加（名古屋大学東山キャンパス）
オンライン参加
アーカイブ視聴



大学教務実践研究会と名古屋大学高等教育研究センターでは、教務の現場における事例を持ち寄り、それを整理した上で実践的な知識まで高めることを目的に、協働して活動しています。この教務課題検討フォーラムは、今日的な課題をとりあげ、ともに議論を深めていく場として設定しています。今年のフォーラムでは、2030 年度から予定されている新たな認証評価制度や同じく 2030 年度から新課程のスタートが予定されている教職課程の再課程認定申請を見据えた内容をテーマとする分科会を設定し、実践的な知識を共有します。

※本フォーラムには、以下の参加形態があります。お申込の際にお選びください。
　現地参加（名古屋大学東山キャンパス全学教育棟 A 館）／リアルタイムオンライン参加／アーカイブ視聴

※分科会 1 の後半 30 分、分科会 2 の後半は現地参加の方のみ対象の交流プログラムとなります。

分科会 1 （10:30～12:30〈10:00 受付開始　10:15 接続開始〉）＜対面・オンライン・アーカイブ＞
　1 a）新たな認証評価に対応できる教務　～情報を組織運営に活かす～
　1 b）改正教職課程認定基準への対応

全体セッション（13:30～15:00〈13:00 受付開始　13:15 接続開始〉）＜対面・オンライン・アーカイブ＞
　教務を取り巻くＡＩの現在地　～学習成果・資格課程・職員育成を切り口に～

分科会 2 （15:30～16:45）＜対面・オンライン・アーカイブ（前半部分のみオンライン・アーカイブ対象＞
　2 a）大学院教育の質保証とは　～制度の理解を通して教務系職員の役割を再考する～
　2 b）実録！教員審査の実際　過去の指摘事項に見る予防的対策を考える！！

お申込み：https://kyoumujissen261212.peatix.com からお申込み下さい。
　※いただいた個人情報は、本企画運営の目的にのみ使用いたします。
　※お一人ずつの参加申し込みをお願いいたします（複数購入はできません）。
申込期限：12 月 8 日（火）
参 加 費：1 名につき 3,000 円（名古屋大学・岐阜大学所属の方は無料）
　・録画対象部分のすべてのアーカイブ映像を後日ご視聴いただけます。
　・支払い方法等詳細は Peatix でのご案内文をご覧ください。
　・本会はインボイスに対応しておりません。課税対象（消費税 10%）です。
お問合せ：nagoya@kyoumujissenn.com（大学教務実践研究会）

分科会１　現地参加／リアルタイム参加の場合、いずれか１つを選択していただきます。

1a）新たな認証評価に対応できる教務　～情報を組織運営に活かす～

担当：宮林 常崇（東京都立大学）、満田 清恵（中京大学）ほか

新たな認証評価制度（学部別・段階別）の最新情報を踏まえ論点を整理した後、今後、教務部門に求められる役割と、今から各大学で取り組める実務上の対応を確認します。さらに、内部質保証を実質化するため、教員と職員が課題を共有し、連携して教育改善を進める組織づくりについて、具体例を交えながら参加者とともに考えます。セミナーで得た情報を組織運営に活かす仕組みづくりを目指してみませんか。

1b）改正教職課程認定基準への対応

担当：小野 勝士（龍谷大学）、山口 大地（静岡大学）

2028 年度から適用される改正教職課程認定基準への対応について、10 月開催の「教務系事務部門中堅者向け講習会」の内容を踏まえ、最新動向と実務上の課題を共有・検討します。前回の講習会で寄せられた質問や論点を整理するとともに、10 月 2 日の文部科学省の説明会以降に公表された Q&A や関連情報があれば、それも反映しながら、各大学における対応状況や課題について意見交換を行います。制度改正の趣旨を改めて確認しつつ、課程認定申請や教職課程運営における留意点、今後の実務対応の方向性について参加者同士で考える機会とします。

全体セッション

教務を取り巻くＡＩの現在地　～学習成果・資格課程・職員育成を切り口に～

担当：竹中 喜一（近畿大学）、有馬 美耶子（白百合女子大学）、宮林 常崇（東京都立大学）

AI の急速な進展は、大学教育とそれを支える教務のあり方にどのような変化をもたらしているのでしょうか。本セッションでは、学習成果の把握・可視化、教職課程等の資格課程における活用、教務系職員の人材育成という 3 つの切り口から AI 活用の現在地を探ります。各登壇者による論点整理や事例の共有を通じて、AI に任せられることと教職員が担うべきことを整理し、大学教育の質保証や業務改善につなげるために教務部門が今から備えるべき視点と具体的な一歩を考えます。

分科会２　現地参加／リアルタイム参加の場合、いずれか１つを選択していただきます。

２a）　大学院教育の質保証とは　－制度の理解を通して教務系職員の役割を再考する－

担当：　大津 正知（茨城大学）

大学院教育の質保証をめぐる近年の政策動向と認証評価の観点を踏まえ、教務系職員に求められる役割について考えます。大学院設置基準等の法令を元に大学院教育の制度的特徴と課題を整理するとともに、教学マネジメント、内部質保証などの実務上の論点を取り上げ、あわせて、あらたな認証評価を見据えた大学院運営と教務部門のあり方を展望します。大学院教育を議論する際の前提となる知識や考え方の共有を目指したいと思います。

２ｂ）実録！教員審査の実際　過去の指摘事項に見る予防的対策を考える！！

担当：多畑 寿城（神戸女子大学・神戸女子短期大学 元理事長）、小野 勝士（龍谷大学）、山口 大地（静岡大学）

課程認定申請の教員審査対応で業績不足や時には教員の変更に直面した経験はありませんか。そこで、運営側から提示する過去の指摘事項について、グループで指摘対応を短期間でどのような解決策をどのような手順で見出して回答するのかを話し合って発表した後に山口氏からコメントをいただき、予防的対策を考える機会とします。さらに、山口氏より指摘事項に記されている「判然としない。」等の言葉に秘められた意味を解説いただきます。